

来るべき才五才七共公が如何に反戦的決議をなさるか、最も早や最遅の

余地はない。我々は新選挙も、才五才七共公の解散を要求して戦は存けられ
ない。(身体内才五才七共公の解散を要求する部外者)

この才五才七共公の解散を要求する部外者は、素晴らし、才五才七共公では
解散し得ないが、各地で新選挙の決議の働きかけが相当猛烈に行
はれたし、また演説会等による選挙の相争も状況に行はれた。

三 普通選挙第二次総選挙戦

才五才七共公は、一月廿一日、委員会決議に於て解散され、愈々普通選挙
二次総選挙戦が開戦され、各地で新選挙の決議の働きかけが相当猛烈に行
はれたし、また演説会等による選挙の相争も状況に行はれた。

- 東京才五区 一九三〇(三) 大山新夫 東京才二区 一九六一(一) 中村高一
- 千葉才二区 三〇二九(八) 藤原大 神奈川才二区 六四九七(二) 神道憲次
- 北海道才二区 二〇〇一(五) 木下源吉 北海道才四区 三〇〇九(一) 木田晴次
- 新潟才二区 一〇二一(六) 上村進 大阪才四区 六七八九(一) 小岩井清
- 京都才一区 七〇二五(五) 河上肇 京都才二区 九八五二(一) 細田重光
- 鹿角才二区 三〇〇二(三) 富澤清二 佐賀才二区 六〇一九(一) 重松重幸

(立候補者十二、当選者八)

四 選挙後に抬頭した合会問題

総選挙終了後、各方面から所謂、「無産政党合会の気運」が湧き上
り来た。これに対して、党本部では、早速次の如き見通しと、これに対する
根本対策をたてた。

合会問題に対する方針

現在我々の眼前に展開せられてあるところの「合同の機運」に對して我
々は如何なる態度を取つて進出すべきであるか？、我々は、当面の「合同
の機運」なるものか、大衆の要求以外に、社会民主主義幹部の議員候補並
張りも多分に含まれてゐるといふ理由で、これを黙殺し、これに對して無関心
の態度を取るべきであるか？、これを我々が平佐から主張してゐるところの眞実
に積極的に対応せよ、これを我々が平佐から主張してゐるところの眞実
の戦いの統一戦線樹立への一歩機とすべきであるか？、無論、後者
が採用すべきである。もし、当面の「合同の機運」が、各党大衆の熱
烈なる統一要求を伴つてあるものであつて、單に社民、大衆、地方産
業及び幹部諸君の議員候補見地からの合同要求からのみ成立してゐ
るものであるならば、無論我々は、最初から、これを一笑に附して、全
然問題にする必要のないものである。だが、何万、何十万の大衆の熱心な